

9037 ハマキョウレックス

大須賀 秀徳 (オオスカ ヒデノリ)

株式会社ハマキョウレックス社長

収益性向上により、増収増益(過去最高)を達成

◆2016年3月期決算概要

当期は営業収益 952 億 4 百万円(前期比 3.6%増)、経常利益 83 億 22 百万円(同 18.6%増)となった。増収の主な要因は、物流センター事業での新規荷主獲得、貨物自動車運送事業での新たな連結子会社の取得、新規荷主獲得及び近物レックス(株)における運賃単価の料金交渉によるものである。増益の主な要因は、物流センター事業での営業収益増加、貨物自動車運送事業での営業収益増加及び燃料単価下落に伴い、燃料費用が前年同期比 6 億 95 百万円減少したことによるものである。

営業収益(前期比 3.6%増)、営業利益(同 20.5%増)、経常利益(同 18.6%増)、当期純利益(同 21.5%増)と、全てにおいて過去最高となった。収益構造は、2013年3月期、2014年3月期は利益面で若干足踏みしていたが、2015年3月期からは2012年3月期以前の成長スピードに戻すことができた。

物流センター事業の営業収益は、前期オープンしたセンターの 12 億 86 百万円、当期オープンしたセンターの 13 億 20 百万円が増収効果となっている。既存センターは、増収したセンターの合計が 32 億 54 百万円、減収したセンターの合計が 26 億 52 百万円となり、結果約 6 億円の増収となった。

物流センター事業の稼働状況は、当期 14 社の物流を受託し、前期受託した 3 社を含めた 17 社のうち 16 社が稼働している。2016年3月末現在の物流センター数は、自社が 27 センター、借用が 60 センターの合計 87 センターとなっている。

取扱品目別売上構成比は、食品が 23%、アパレル関連が 41%、医療・医薬関連及び雑貨を含めたその他が 36%という状況である。

貨物自動車運送事業の営業収益は、482 億 24 百万円(前期比 70 百万円増)となった。増収の主な要因は、新たな連結子会社の取得によるものである。ただし、近物レックス(株)は物量の減少により、減収となった。

◆2017年3月期計画

2017年3月期の連結業績予想は、営業収益 1,010 億円、営業利益 88 億円、経常利益 90 億円としている。設備計画は 30 億円を計画している。

2017年3月期は、1株当たり 40 円の配当を計画している。

中期経営計画については、初年度となる2016年3月期は順調なスタートを切ることができた。2年目となる今期も引き続き、2018年3月期の経常利益 100 億円達成を目標に取り組む。

計画達成に向けた今後の取り組みとしては、当社は基本を着実にを行うことが業績向上への近道と考えており、既存路線を軸に、3PL 事業を成長ドライバーとした戦略を継続していく。3つのキーワード、「日々収支」、「全員参加」、「コミュニケーション」を踏襲した上で、さらなる高みを目指し挑戦していく。既存業務にとらわれず、グループ内のインフラ・ノウハウを有効活用しながら事業展開を図る。

新規営業に関しては、引き続き年間新規受託目標 15 社以上を目指す。海外戦略への取り組みは、国内の顧客満足度向上のため、中国への展開を行っていく。

◆2016 年 3 月期決算実績

経営企画室課長 竹内 義之

2016 年 3 月期は、全四半期において営業収益、各利益ともに前年同期比プラスとなった。

物流センター事業は新規事業の獲得が業績に寄与したため、営業収益・経常利益ともに前年同期比プラスとなった。

貨物自動車運送事業は、物量減少の影響はあったものの、新たな連結子会社の取得、燃料単価下落等により、第2四半期を除き、営業収益・経常利益ともに前年同期比プラスとなった。

経費・人件費については、人件費率はおおむね横ばいで推移した。

貸借対照表の総資産は 1,059 億 52 百万円(前年同期比 116 億 11 百万円増)となった。増加の主な要因は、流動資産では現金および預金が 24 億 27 百万円減少、受取手形及び売掛金が 6 億 34 百万円増加、固定資産が 129 億円増加したことによる。

負債は、580 億 67 百万円(前年同期比 18 億 70 百万円増)となった。増加の主な要因は、新たな連結子会社の取得、短期借入金の増加等により流動負債が 11 億 60 百万円、固定負債が 7 億 10 百万円、それぞれ増加したことによる。

純資産は、478 億 85 百万円(前期比 97 億 41 百万円増)となった。増加の主な要因は、昨年の増資及び当期純利益が増加したことによる。この結果、自己資本比率は 39.9%(同 4.8%増)となった。

有利子負債(借入金)は、309 億 59 百万円(前期比 11 億 74 百万円増)となった。増加の主な要因は、新センターの借入、子会社取得によるものである。

キャッシュフローは、営業活動によるキャッシュフローは 77 億 91 百万円の資金獲得、投資活動によるキャッシュフローは 133 億 41 百万円の支払い、財務活動によるキャッシュフローは 30 億 94 百万円の資金獲得となった。

設備投資と減償却費は、設備投資額 156 億 31 百万円、減償却費は 38 億 21 百万円となった。

◆近物レックス(株)の現況と今後の戦略

2016 年 3 月期の近物レックス(株)単体の営業収益は、前期比 4 億 42 百万円の減収となった。減収の主な要因は、物量が減少したことによる。営業利益、経常利益増益の主な要因は、運賃単価の値上げ、値引き、手数料の改善等、収益性が向上したことと、燃料単価が下落したことによる。

連結・単体ともに営業収益は減収となったが、各利益については全て前期比プラスとなり、過去最高となった。連結・単体ともに、営業利益は 9 期連続、経常利益は 4 期連続増益となった。

2015 年度は、新運賃への切替え(運賃単価は前期比 2%増)、不採算取引の改善(値引きの改善・手数料の負担軽減)、千葉県と静岡県において同業とのアライアンス開始、売電事業の拡大を行う等、適正利益の確保に注力した。

また、三重大事故(車両・労災・商品)の撲滅、環境整備、デジタコ装着(2016 年度全社装着完了予定)等、安全への取り組みを重点的に実施した。

2016 年度は、営業力の強化による輸送量の拡大、東北新拠点での輸送力の強化、輸送の効率化等、収益性の向上に取り組む。あわせて、車両事故撲滅等による輸送の安全、会社案内の充実や雇用条件の見直し等による雇用促進、施設の維持更新・車両代替・財務体質の強化等による設備投資に全社を挙げて取り組む。

2017年3月期の業績予想は、営業収益は計画比372億9百万円(前期比9億70百万円増)、営業利益は20億89百万円(同5億56百万円増)、経常利益20億35百万円(同4億92百万円増)を目指す。

(平成28年5月25日・東京)

* 当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見るができます。

<http://www.hamakyorex.co.jp/ir/library/presentation/index.html>